

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観	-	8	鎗木清方記念美術館管理運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	文化観光部 文化課				評価者	文化課長 鋤柄 雅之			
一般	会計	款	55	項	20	目	5		
総合計画上の位置付け	分野名	文化			施策の方針名	文化活動の支援・促進			

1 事業の目的

対象	市民等	意図	鎗木清方の作品等を展示公開及び維持・管理し、鎗木美術品等の調査及び研究を行うため。
効果	鎗木清方の業績を後世に伝える。市民の教育、学術及び文化の発展に資する。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	鎗木清方記念美術館の運営、維持修繕	鎗木清方記念美術館の運営、維持修繕	鎗木清方記念美術館の運営、維持修繕
予算額（千円）	79,306	63,958	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	79,306	63,958	0
当初人員配置数	0.8	1.0	0.0
人件費（千円）	6,830	8,826	0
事業実績	鎗木清方記念美術館の運営、維持修繕		
決算額（千円）	68,725		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	68,725	0	0
人員配置実績数	0.8	0.0	0.0
人件費（千円）	6,626	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	来館者数	人	16,188	↗	19,966		
活1	実績につながる活動	指定管理者による企画展及び特別展の実施				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・国指定重要文化財【築地明石町（3部作）】を鎌倉で初めて公開するなど、大きく注目を集める特別展を3回実施したことにより、来館者の増加につながった。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	年間パスポート購入者数	人	109	↗	163			1
成2	指定管理者が実施する特別展及び企画展の来館者の満足度	%	97	⇒	99			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	来館者の満足度が高い水準を維持できていることから、来館者のニーズをうまく捉えた企画が実施できている。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	来館者満足度は高い水準で維持されており、来館者ニーズを的確に捉えた企画を実施できている。加えて、国指定重要文化財【築地明石町（3部作）】の鎌倉での初公開を含む注目度の高い特別展を3回開催したことにより、来館者の関心を喚起し、来館者数の増加につながった。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☐ 市	☐ 国・県	☒ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	評価実施年度の方向性		⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	近年、低迷していた来館者数については、国指定重要文化財【築地明石町（3部作）】の鎌倉で初めての公開などにより、過去、数年間の平均来館者数を大きく上回り、令和7年度の来館者数は、約2万人となった。引き続き、事業内容などを指定管理者と協議し、充実を図るとともに、広報を効果的に行い、来館者数の増加を図り、清方芸術の魅力を広く伝えていく。			上位施策への寄与度
					A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項		総来館者数（R7）・1日平均来館者数							
団体名	鎌倉市	萬鉄五郎記念美術館（岩手県花巻市）	笠岡市立竹喬美術館（岡山県笠岡市）	浜松市秋野不矩美術館（静岡県浜松市）					
他市実績	19,966人	11,842人	19,350人	24,292人					
	72人/日	50人/日	84人/日	98人/日					
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		鎗木清方記念美術館と同規模の特定の画家を主軸とした美術品等の収集及び展示を行う公立施設と対比し、客観的な比較、評価を行う。 1日の平均来館者数を比較した場合、首都圏域という立地条件を考慮すると、来館者数は更なる増加の余地がある。							